



NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2016年 秋号 10月12日発行 通巻62号
 発行人 梅沢 みどり（府中市紅葉丘）
 TEL 042-351-0689
 編集人 葛西 利武

第6回 わき水まつり 野外の部／7月15日16日

身近な西府崖線(ハケ)は自然の宝庫！ 行ったことはありますか？

西府崖線(ハケ)は、南武線・西府駅と西府文化センターの南側に位置する立川崖線の一部です。ハケを降りていくと途中には東京都名水57選の水が湧き出ており、これらの湧水は用水路へと流れます。

このエリアの緑地は、市内の緑地870haの約1haを占め、樹木や草花などが密集し、季節ごとに様々な動植物が見られます。最近では亜熱帯化が進んでいるのかシュロの実が冬越しをし、その苗が次々と育ってきています。

私たちは、2011年からこの西府崖線を中心に「春・秋一斉清掃活動」や「湧水量・水質調査」、「樹木・野鳥調査」、「保全のための講演会」、「用水の生き物探検隊」、「ハケを歩く歴史・自然遺産めぐり」など、市民が自ら保全活動に参加できる機会を増やしてきました。

数十年間水がなく枯れていた「かっぱ池」には、2年前から年間通じて自然流下で水を流し、今では数々の生き物が戻ってきています。ザリガニを捕るなど子どもたちの絶好の遊び場になっています。



あずまやで野草あそび
 左上是シュロの葉で作ったバッタ

今年も日新町一丁目ハケ下のあずまやを会場に、7月15日16日、第6回「わき水まつり」(野外での生き物探しや活動パネル展示、シュロの葉でバッタ作りなど)を開催しました。

一日目は、毎年好評の大平充農学博士による「用水の生き物探検隊」を実施しました。実際に用水に入り、水辺や水中にいる魚などをタモ網で捕まえたり生き物調査をします。

今年はさらに、会員の高家博成農学博士による「昆虫とあそぼう！」を新たに企画しました。野外開催ならではの昆虫探しとその特徴を学び、自然界の小さな生き物を身近に感じられる企画です。

残念なことに一日目の午前・午後は雨でフィールドワークはできませんでしたが、「わき水まつり」の拠点・あずまやで「デントウムシの遊園地」や「カナブンとあそぼう」、「ワイヤ



用水の生き物探検隊

ーで作ったアメンボを浮かそう」などのコーナーを設け、会員たちも一緒に昆虫の特性を学ぶ機会となりました。

雨がやんだ二日目は、大平農学博士と一緒に「用水の生き物探検隊」を行ない、子ども16名、大人20名の参加でにぎわいました。前日の大雨で用水量が多く流れも早い状況になりましたが、ザリガニやドジョウ、オイカワ(魚)、コイ、多様なヤゴなどが例年通り見ることができ、今年は10センチ大のモクズガニも見られました。湧水の流れる市川用水には、きれいな水面で遊ぶシマアメンボが見られました。

6回目の「わき水まつり」を終えて

今年も地域の商店の方や第五小学校全児童にチラシ配布などの協力を得て開催することができました。アンケート結果から、ハケ下を歩く地域の皆さんからは「会の活動を知らせる3箇所の掲示板は見たことがある」と多くの声をいただきましたが、一方では毎年行っている「わき水まつり」を知らない市民の方が沢山いることもわかりました。

4頁には毎年家族で参加されている方からの感想を寄せていただきました。「自然の宝庫！西府崖線」を一度は訪れてみてください。(西府崖線保全チームリーダー：浅田多津子)



用水の生き物展示

田んぼの学校 米づくり体験／2016

田の草取り・生き物探しを開催

この夏最高気温が予想される猛暑日となった7月3日(日)、今年度の「田んぼの学校」の第2回目となる「田の草取り・生き物探し」が行われました。幸い、朝方はうす曇りで風もあり、田んぼから吹いてくる涼やかな風が大変心地よい条件の中で開催されました。時間は9時～11時30分。

第1回目の5月29日(日)に植えた稲の苗も、やや高めの気温が続いたためか3倍近くに生長し、たくましく育っていました。



タモ網を使っての生き物探し

今回のカリキュラムは、稲の生長を疎外する雑草を除去する事と、田んぼの中に生息する水辺の生き物を探したり、田んぼの畔道に生息する昆虫などを探しながら、稲と雑草、生き物との関わりを学ぶ場として組み込まれたものです。

はじめは「田んぼの中に棲む生き物」をタモ網を使って捕まえて水槽に入れる事から始めました。この生き物探しは子供たちの楽しみにしている作業で、アメンボやゲンゴロウ、ヒルなどを捕まえると子供たちの歓声が上がっていました。

なかには珍しい「ホウネンエビ」も見つかり、昔から「ホウネンエビ」が見つかる、その年は「豊作」になるという「言い伝え」がある事も農工大の先生から教えて貰いました。

「田んぼの生き物探し」の後に、「田んぼの草取り」を手作業で行った後に、「田車」という昔から使っている機械を使って稲の生長を妨げる雑草を取り除く作業をしました。

毎年クログアイという雑草が繁茂して除去するのに苦労をしていましたが、今年は、新しく水田にした場所だったためか、それほど繁茂しておらず、短時間で終了しました。



田んぼの畔道の生き物探し

「田車」は、小さな子供たちには大変重く、スタッフや保護者に手伝って貰いながら初めて体験しました。今は農薬などを使って稲を育てますが、昔は大変な作業をしながら「お米」を作っていた事を学びました。

「田の草取り」の後は、「捕虫網」と「虫かご」を持って「田んぼの畔道」に移り、バッタや蝶々、カマキリ、コオロギなどを捕まえました。その中には、絶滅危惧種のトウキョウダルマガエルも3匹捕まえる事ができました。

昨年、田んぼの生き物の生息記録調査を始めた事もあり、捕らえた生き物を集計しました。昆虫博士の高家さんと農工大の大平先生による生き物の説明があり、子供たちからは「バッタやコオロギは何をたべるの?」とか「ヒルは本当に人の血を吸いますか?」など質問が続きました。



大平先生による生き物の説明

今回の「田の草取り・生き物探し」には、生徒39人(4人欠席)、保護者31人、市民の会会員16人、農工大生7人、市役所から環境政策課の課長も参加され、総勢94人となりました。(竹内章)



「田車」を使って除草する親子

☆番外編／7月24日(日)田の草とり、防鳥ネット張り作業を行いました。田の草とりは、7月4日にもNPOボランティア活動センター主催のボランティアコーディネーター養成講座メンバーを含めた7人で、昨年と同様に行いました。「無農薬で収量を減らさないようにするには、人手で草取りをすることが必要」、「おいしいお米をスズメに先に食べられても困る」からです。こうしたことにより、昨年は一昨年の倍以上の収量を無農薬で実現できました。今年もおいしいお米が沢山とれることを楽しみにしています。

田んぼの学校 米づくり体験

稲刈り・ハサかけの部

今日、9月25日は待望の稲刈り。稲刈りを祝福するような久しぶりの晴れ間が出る。場所は、東京農工大農学部附属本町農場である。今年は台風、ゲリラ豪雨に見舞われ、日本各地で堤防の決壊、河川の氾濫、田畑の冠水等、大きな被害がでた。果実、稲が全滅した映像を目にすると改めて自然の脅威を再認識し、自然との共生、農業、漁業従事者の大変さを感じる。

田んぼの学校も稲刈り1週間前に大型台風16号が発生し、九州に上陸、関東地方を直撃するのではないかと気をもんだが、幸い、稲刈り2日前には関東地方をかすめ、かうじて大きな被害にあうことなく稲刈りの日を迎えることができた。

ただ、ここ1週間の日照時間はわずか0.1時間、前日も午後から激しい雨に見舞われ、田んぼの状況を心配したが今年の場所は水はけがよくぬかるみ程度で収まり、まずまずの稲刈りコンディション。



刈り取った田んぼの前で記念撮影

絶好の稲刈り日ながら生徒の出足が鈍い。前日の雨で運動会が順延になり、欠席する生徒もいる。参加者数は生徒33人、保護者29人、スタッフ13人、農工大8人、東高4人、NPOボランティアセンター4人の合計91人で9時10分に開校した。今日の予定を説明後、恒例のピョピョさん体操で身体をほぐし、稲刈り・ハサかけを始める。

今年は7月の雑草取りの段階ではクログアイが少なく、「今年は雑草が少ない、今日の作業量は少ないです。生き物探しの時間を多く取りましょう」と安心していたら、想定外のヒエが田んぼ全体の4割ぐらいで大発生、稲の丈よりも長く伸びている。農工大の先生も驚くヒエの量で田んぼの学校も11回目を迎えるが初めての経験。草取り時のヒエの見落としを反省！！

ヒエも稲同様分けつするので株元を見ただけではヒエ、稲の見分けがつかず、穂先を見て判断しなければならない。2株3株と連続して刈るのが効率的だが、稲とヒエが混ざってしまうと後で分ける手間が大変で1株ずつ穂先確認が必要になる。スタッフは時間内での作業終了は難しいと半分あきらめ、出来るところまでで終わる覚悟、時間優先で進めることでスタートする。



一輪車で稲の集積場所に運ぶ

(写真上)。ヒエはヒエの集積場所にまとめる。稲刈りをしていた女の子が「穂先を見なくても株元をつかんだ段階で稲かヒエがわかるよ。柔らかいのが稲、硬いのがヒエ。これは稲、これはヒエ」と手際よく刈っていく。生徒から見分け方を教わった。

去年はハウスが使えず田んぼにハサを準備したが今年はハウスに準備する。田んぼからハウスまではリヤカーと一輪車4台でピストン輸送。子供たちにはリヤカー、一輪車を使

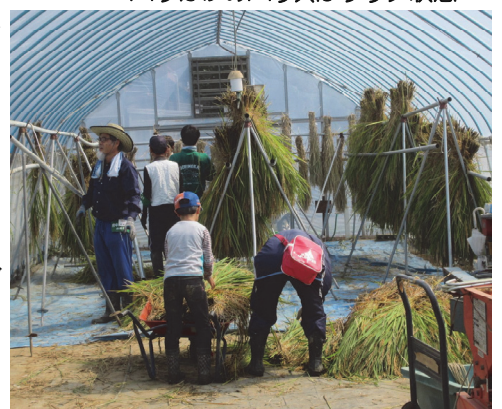
っての稲束運びも楽しい体験だ。リヤカーは稲束を山積みするので重くなる。一輪車はバランスをとるのが難しい。どちらも小学生1人では難しく、農工大のお兄さんと一緒に運搬する。ほほえましい光景だ。

ハサは5組設置(支柱12本、横棒21本)。昨日までの涼しさから一転、夏日に。外気温が28度に上昇、ハウスはサウナ状態になりハサかけが今日一番の激務になる。途中から農工大、東高校の若い力が応援に入るが追いつかず。時々ハウス外で休まなければ熱中症になりそう(写真下)。生徒のハ

サかけ体験も予定していたが断念。作業の大半は若い力に頼る、感謝！感謝！

ハサかけのハウスはサウナ状態

熱中症対策の水分補給時間を取りながら作業を進める。準備したペットボトルもすぐになくなった。生徒、保護者、学生、スタッフ、みんなの力は素晴らしい。時間内に終わらせるのは



は難しいと思って始めたが、皆さんの頑張りがり予定時間より10分遅れの11時50分にすべて完了。

稲刈りが終わると全員で落穂拾い、(生き物さがしに喚声をあげる生徒も多数いたが)その後、全員できれいに刈り取った田んぼの中で稲束を胸に抱き、記念撮影をして終了した(写真左上)。次回(10月9日)は脱穀・モミすり。今年の収穫量がどのくらいになるか楽しみである。(柿本正夫)

第6回わき水まつり／野外の部 ☆金子さんちの物語☆

おねえちゃん、幸せだねえ 😊

「わき水まつり／野外の部(7月16日開催)」に、お子さま2人と参加された金子里恵さんに寄稿していただいた。
(編集部)

「おねえちゃん、幸せだねえ。」

これは、4歳になった息子の珠玉の言葉である。

息子がなぜこの言葉をつぶやいたのか。そのいきさつを述べさせていただきたい。

私たちの家族がこのわき水まつりに参加したきっかけは、昨年参加した田んぼの学校のスタッフとの雑談から、情報を得たためだった。府中のわき水を是非この目で確認したいと思い、昨年の初夏にわき水まつりに参加した。その体験は今でも覚えている。

ちょろちょろと湧いている水を見たときの驚き。沢ガニも生息していると聞いたときの喜びはとても大きいものだった。

そのあとの大平先生と一緒にまわる用水路の生き物探しに、当時1年生だった娘は、用水路に足を入れただけで、きゃあきゃあ騒ぎ、ガサガサと網を動かす手つき足つきはお世辞にも立派とはいえないものだったが、親子共に「また来年も来よう」と家路についたときから我が家の約束事になった。



大平先生(左端)の指示のもと、恐る恐る用水路にはいる参加者
平成28年7月16日撮影

それから、丸1年。7月になったある日、わき水まつりの情報がもたらされると、すぐに家族の予定表に赤ペンでわき水まつりが加筆された。

待ちに待ったその日、少しくましくなった娘は用水路に入るとき、「冷たい！」と言葉に出しただけ。あとはひたすらガサガサ、ガサガサと素晴らしい手つき足つきで繰り返すこと、数回。なんと、念願のどじょうを発見。

娘は捕まえた瞬間に「どじょうを飼いたい！エサもちゃんとやる！」と宣言したため、わき水まつり終了後すぐにホームセンターに向かい、エアープンプ、エサ、砂、小型の網など必要なものを揃えた。



⑤どじょうを眺めて幸せそうな弟(奥)としっかりものの姉
⑥どじょうのレン君(左側の下部にいます)

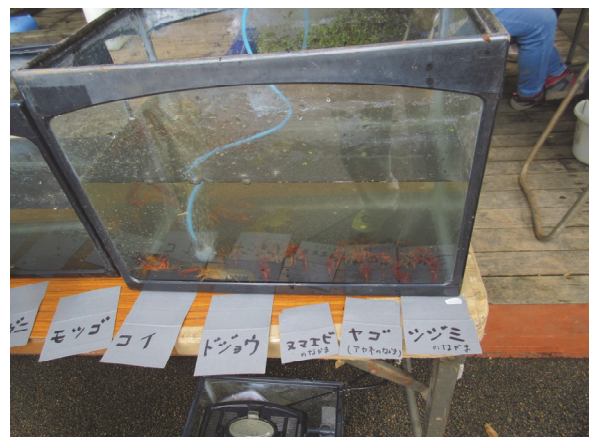
その日は、持ち帰ったどじょうを自宅の水槽に移すまでは本当に大騒ぎだった。水を作り、砂を洗ったりと初めてのことがばかりだったが、親子で同じ目的のために一丸となって取り組んだ。

結局、全てが落ち着いたのは、夕方になってからだった。そして、冒頭の息子の幸せ発言が飛び出すわけである。

ここまで長くなったが、わき水まつりに参加したことのない方がいらしたら、是非参加をおすすめしたい。幸せ発言が子供の口から出たり、家族に団結心が芽生えるかもしれない。たった2回参加しただけだが、我が家にとってなくてはならない行事になっている。

このような機会を与えてくれたわき水とこの行事を企画している府中かんきょう市民の会の皆様に感謝申し上げますと共に、来年以降も是非開催をお願いしたい。

余談だが、我が家のどじょうは娘により、レン君と命名された。この文章を作成した日も元気で生きている。



あすまや前に展示された生き物たちの一部

キツネノカミソリを観る会



2011年7月から本宿町緑地で保護活動を始めたキツネノカミソリは当時50株足らずでしたが、2016年8月現在では150株弱に増えています。その咲き具合を市民の皆さんに見ていただきたく8月7日(日)に「観る会」を開きましたが、見頃が1週間ほど早い7月31日(日)だったため、当日花は少なく会員のみの鑑賞会でした(写真⑤)。時間は16時～17時。

満開の予想はその年の気候に左右されるようで本当に難しいものです。が、7月31日の私が散歩中にキツネノカミソリを立ちどまってながめっていると、ご夫婦が2組、散歩中のご婦人2人、自転車で通り過ぎようとしていた若い女性、計7人の方たちが声をかけて下さいました。「きれいですね」「今年はよく咲いていますね」「面白い名前の花ですよね」「ニッコ

ウキスゲかと思ったわ～、違うのね」などなど。案外興味をもって下さっている方がいらっしゃるようでうれしい思いをしたものです。

この花は西府崖線の5ヶ所で見られますが群生しているのは本宿町緑地のみです。昨年までは何株か盗掘されていましたが今年はその心配もありませんでしたが、白花のキツネノカミソリを折られました。3年ぶりに咲き珍しかったので少し残念な想いです。(写真⑥)

ヒガンバナ科の多年草で明るい林床や林縁などに自生して、早春のまだ他の草が生えていないうちにスイセンに似た葉を茂らせ、夏草が茂る頃には葉を落とし、7月半ばから8月上旬に花茎を伸ばし先端で枝分かれした先にオレンジ色の花をつけるキツネノカミソリ、来年はどのような姿を見せてくれるか楽しみです。(田中香代子)



一般参加者対象

「ハケ・用水・わき水通信(No. 21)」と「広報ふちゅう」でもお知らせします。

※右の表線、☆6、7、9の部

6.秋の清掃活動と巣箱取り外し
10月15日(土) 雨天時16日(日)
10:00～12:00

※野鳥は清潔な環境を好むため一旦巣箱を取り外して洗う。

7.歴史・自然遺産めぐり
11月3日(木) 雨天時5日(土)
9:00～12:00府中本町駅→善明寺→高安寺→高倉塚古墳→八雲神社→御嶽塚古墳→西府駅

9.野鳥観察会
2017年2月4日(土)
雨天時5日(日) 9:00～11:00

◎8の樹木名札づけと巣箱取り付けは会員が作業を行いますが見学は歓迎します(12月3日)。

西府崖線(ハケ)保全活動の10月以降の予定

西府崖線保全活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	春の清掃活動		● 生態系調査1										
2	わき水まつりパート1／講演会			●									
3	わき水まつりパート2／野外の部 (パネル展示、野草遊び、生き物探検隊等)				● 生態系調査2								
4	キツネノカミソリを観る会					●							
5	生態系調査／年度4回 (5月、7月、9月、2月にフィールドワーク)						● 生態系調査3						
6 ☆	秋の清掃活動と巣箱の取外し(洗うため)							●					
7 ☆	歴史・自然遺産めぐり								●				
8	樹木名札づけと巣箱取り付け									●			
9 ☆	野鳥観察会												● 生態系調査4
10	西府町湧水の水量調査(●毎月) 水質調査(★6月と12月)	●	●	● ★	●	●	●	●	●	● ★	●	●	●

(葛西利武)

海の汚染は深刻、暮らしから容器包装・レジ袋・ペットボトルの削減を！

陸地の汚染に続き、海洋までとなると「海洋国家日本」はもちろん、地球全体が致命的なダメージをうける極めて深刻な問題である。下記の映画上映と講演会開催にご尽力された、前田弘子さんに話を聞いた。(編集部)

- 映 画 TRASHEDーゴミ地球の代償ー
※2012年カンヌ国際映画祭特別上映作品
- 講演会 プラスチックによる海洋汚染のいま
- 講 師 高田秀重(東京農工大学農学部 環境資源科学科教授)
- 日 程 4月3日(日) ①10:00～ ②13:00～
- 会 場 グリーンプラザ6階 大会議室



高田 秀重先生

講師プロフィール

1959年東京生まれ。主な著作に『環境汚染化学』(丸善出版)『環境ホルモンの最新動向』(ブックレビュー社)等がある。環境汚染の解析が専門であり、廃棄されたプラスチックの海洋汚染や環境ホルモン、ごみ処理のあり方に警鐘を鳴らしてきた。医薬品による水汚染問題について日本で最初に取り組んだ1人でもある。

私が映画「TRASHEDーゴミ地球の代償ー」を府中で上映したいと思ったのは、昨年(15年)10月の「NPO小平・環境の会」20周年記念上映会がきっかけでした。レバノンの海岸のゴミの山、インドネシアの首都を流れる川を埋め尽くすゴミと「共存」して暮らす人々、海のプラスチック汚染の実態の映像が衝撃でした。

同年6月にドイツで開かれたG7サミットでプラごみの海洋汚染問題が取り上げられたことは、長年調査に取り組んでこられた地元東京農工大学の高田秀重先生たちの成果でもあります。そこで映画上映と合わせて、高田先生に講演を依頼しました。

先生は2つ返事でOKを下さいました。ただし「映画よりも今はもっと深刻な状況です。映画の最後のほうでリサイクルに取り組むアメリカの市民運動が描かれていますが、日本も同様の取り組みをしているので、リサイクルすれば問題ないという誤解を与えがちです。参加者には先に映画を観てから私の話を聞いてほしいので、2回映画上映するなら2回講演させて下さい。大学と近いので往復します」との条件がつけました。

そうして4月3日に2回も、市民向けの分かりやすいお話をさせていただき貴重な機会を得ました。「普通のお台場の砂」を水の中でかき混ぜるとマイクロプラスチック(5mm以下のもの)がいくつも浮き上がる実験や、豊富な写真とデータで、海の汚染の深刻さが実感できました。以下ごく簡略にまとめますと(写真・図は先生作成の当日資料から)…



世界では毎年約800万トンのプラスチックが海へ流入し、大小さまざまな大きさのプラスチックごみが、国境に関係なく漂流・漂着し、魚や海鳥が餌と一緒に取り込んでいます。マイクロプラスチックは東京湾のカタクチイワシからも高い割合で検出されることが分かりましたが、元は私たちの暮らしから出て、廃棄したプラスチックが小さく砕かれたものです。日本近海は世界平均の27倍もの高い密度のプラスチックが浮いています。放置すればこれから20年で今の10倍もの量が海に流入すると予想されています…

そしていま問題視され研究されているのは、プラスチックには有害な化学物質が吸着しやすい性質があり、餌と一緒に取り込んだ生物の体内に化学物質が蓄積されるのではないかということだそうです。水俣病などで問題になった「食物連鎖」「生物濃縮」を想起させます。



海岸漂着プラスチック中のPCBs濃度(ng/g)

石油が原料であるプラスチックは現代社会では欠かせない有用なものです。しかし生態系の中では新参モノ、分解に時間がかかり、処理処分は困難です。便利さから、そんな負の側面を無視している間に、最終の行き場である海が大変な状況になっていました。「海洋国家」日本だからこそ国がプラスチックの生産段階での規制をすべきで、特に使い捨ての容器包装プラやレジ袋は大幅な削減に向けて「容器包装リサイクル法」の改正を行ない、プラスチックの処理コストも自治体や住民ではなく生産者が負う仕組みに転換なくては間に合わない！と思われました。

高田先生は、私たちが捨てるプラスチックが川を伝って海の汚染につながっている、将来の世代に汚染を押し付けないように暮らしを変えよう、と力説されました。

1人でも多くの人に先生の思いを伝えたいと思います。

西府崖線(ハケ) 新カラー図版

『ハケって、なに?』

堂堂
完成

西府崖線保全活動を行っている当会会員には(以後、西府チーム)、ハケのことが一目でわかる宣伝パンフレットを作りたいという願望が漠然としてあった。

西府崖線は府中市の「自然遺産」といってもよく、自然の宝庫である。その希少価値を多くの市民に知っていただきたいという思いからである。幸い、会員の日常活動による写真、資料、記録などがかなりの量に及んでいた。

願望が具現化しかけたのは2014年(平成26)10月13日の第1回会合だったが、諸事情で進展することはなかった。

仕切り直しをしたのは、今年4月26日の第1回編集会議である。西府チームから田中香代子さんと私が編集委員として参加、さらに当会会員の内田久子さんが加わり、この3人が推進役となった。今回完成できなければ本企画はボツになるだろうと思っていたので、私は必ず完成させるという意気込みでのぞんだ。



(おもて面)

その意気込みが効を奏し、8月半ばに完成した。本企画に新たに用意したのはおもて面にある「ハケのQ&A」だけである。そのほかはすべて既存の資料を活用したため、約4か月で完成した。しかし、最初の会合からは2年近くを要している。ちなみに、おもて面「樹木の一口メモ」から紙幅の都合上、該当の樹木番号をカットせざるをえなかった。



(なか面)

サイズはA3判、三つ折り両面カラー印刷である。当会のホームページにも反映させる。最後になったが、この企画は「東京ガス環境おうえん基金」からの助成金を受けている。(葛西利武)

<協力者>

- ・写真／田中香代子 牧原文男 浅田多津子 葛西利武
- ・イラスト／高家博成
- ・樹木マップ／小西信生
- ・樹木一口メモ／野口道夫
- ・ハケクイズQ&A／竹内 章
- ・ハケの年間保全活動／葛西利武
- ・デザイン・データ制作／内田久子
- ・東京ガス等との折衝／渡辺 實

府中市地球温暖化対策
地域推進計画の中間見直し

「京都議定書」のその後

前編

府中市環境審議会委員で、当会の事務局長も兼ねる小西信生氏に前編と後編の2回に分けて「京都議定書のその後」を執筆していただいた。なお、次号(通巻63号)の後編では、「地球温暖化の影響」と「府中市の地球温暖化対策 地域推進計画の中間見直し」を述べる。(編集部)

地球温暖化対策の経緯

地球温暖化については1980年代頃から大きな問題として取り上げられ、1992年の「気候変動に関する国際連合枠組条約」の採択で、国際的な共通の課題として認識されてきました。

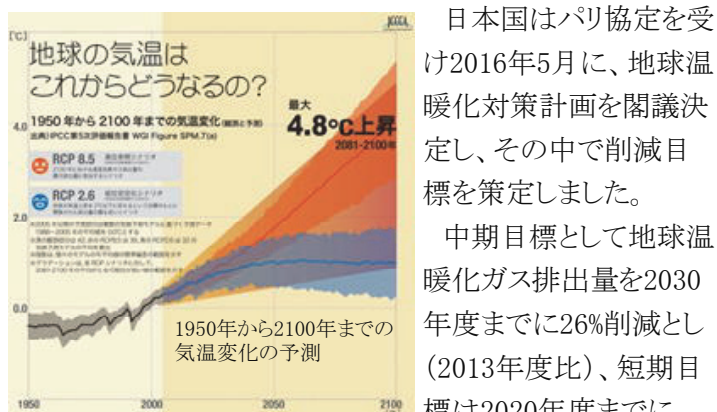
1997年には、地球温暖化防止京都会議(COP3)で、京都議定書が採択され、日本国は、地球温暖化ガスを第一約束期間の2008～2012年度で6%削減(1990年比)する目標を国際公約として取り組むことになりました。

日本の目標達成状況は、確定値では温暖化ガス排出量では1.7%の増加だったものの、森林吸収源や京都メカニズム(クリーン開発、排出量取引、共同実施)の効果で8.7%削減となり、目標を達成したとされています。

第二約束期間は2013～2020年で、全体目標は25%削減(1990年比)とされました。日本は第二約束期間不参加のため目標設定はないですが、自主的な取り組みとして、2013～2020年で25%削減(1990年比)を設定しました。

最近の目標見直しの動き

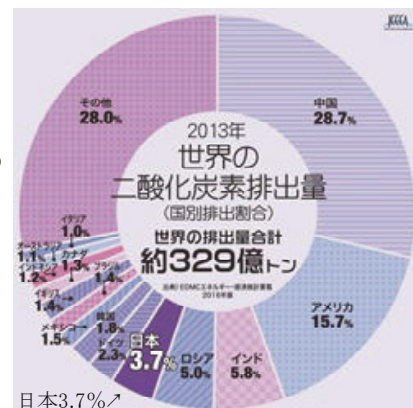
地球温暖化防止パリ会議(COP21)で「産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えることを目指し、1.5℃未満も努力目標とする数値目標」が2015年12月にパリ協定として採択されました。



3.8%の削減(2005年度比)としています。

東京都も2016年3月に、東京都環境基本計画2016を策定

し、そのなかで地球温暖化対策については、東京の温室効果ガス排出量を2030年までに30%削減(2000年比)、東京のエネルギー消費量を2030年までに38%削減(2000年比)との目標を設定しています。



地球温暖化の状況

1880～2012年の期間では、世界平均気温は0.85℃上昇しています。これは2001年に発表されたIPCC第3次評価報告書で示されていた1901～2000年の100年当たり0.6℃の上昇傾向よりも大きくなっています。

日本でも20世紀の100年間で、1.1℃強の気温上昇があると報告されています。

地球温暖化ガス(CO₂)の急増が主な原因とされており、最近ではヨーロッパ、北アメリカ、日本などのいわゆる先進工業国だけではなく、アジア各国やアフリカ、中南米の各地域でも人口増、生活水準の上昇と都市化、工業化に伴って、地球温暖化ガスは増加しているとされています。

日本だけで考えると2011年3月の東日本大震災以降原子力発電所はほとんどストップしており、電力のCO₂排出係数は大震災以降50%程度増加しており、これまでの温室効果ガス削減のシナリオは使えなくなってきました。

府中市は首都圏に位置しており、地球温暖化だけではなく都市化に伴うヒートアイランド化の影響も受けていると言われています。

気象庁が公開している府中市幸町の東京農工大内の気温は1976年からの39年間で約1.6℃、年間平均気温が上昇しています。(次号に続く)

※資料4点の出所:全国地球温暖化防止活動推進センターHPより

訂正して、おわびします。前号(通巻61号)8ページの「電気の共同購入」の下記2か所です。

- 右側の上から18行目
×原発に由来しない電気を使用できます。
○原発に由来しない電気を利用したいという意思表示ができます。
- 右側下の「電力共同購入のイメージ図」の真下
×6月から生活クラブエナジーからの電気を利用していますが、
○6月から生活クラブエナジーと契約していますが、